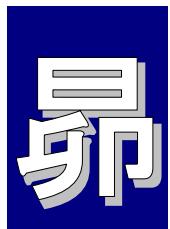


「とびさるく鳩も集いし日うたや」



Subaru

男声合唱団

ニュース No.268

'10. 10. 26



2010年10月15日午後。長崎市民会館では日うた一般Bの合唱が響いていた。

その会館の裏、中島川の石橋群の一つ東新橋の上では沢山の平和の鳩が集い、その合唱に首をかたむけて聴き入っていた

投稿

船に酔わず、酒に酔った日うた長崎の旅

立川 孝信

昂としては佐渡に次いで二度目の船旅で、今回はまったく船酔いもなく快適だった。行きのフェリーでの船室の交流会の後、展望風呂に入ると丁度明石海峡大橋を通過するところだった。この後、瀬戸大橋と来島大橋を通過する予定だが、真夜中なので私は夢の中だったと思う。しかし、明日合発があるというのに夜中の一時過ぎまでも飲んで騒いだ気まぐれ鳥さんもいたようだ・・・・。

さて、日うた長崎祭典の合発はリッチな飛行機組やJR組と合流して、38人の参加。ピアニストの静さんにはわずか七分

弱の演奏のために光ちゃんをおいて、身を切られる思いで駆けつけていただき、いつもながら感動的な演奏には感謝である。未来への「ねがい」しっかり歌い切った反応はとても良く、多くの見知らぬ観客から「素晴らしい」と声を掛けられた。審査結果は見事「銀賞」で入賞出来なかった昨年のリベンジを果



(1/2)

西野ヤシの音楽遊び

たした。この日の夜の音楽会は長崎らしく、オペラ「蝶々夫人」のハイライトが圧巻だった。

宿は敢えてカプセルホテルにしただけに、サウナ、ジャグジー、塩水風呂など色々あり、着衣もタオルも使い放題でレストランも貸切状態で、おまけに三村さんのネット割引券のおかげで、とても安上がりになった。「旅」は「カプセル」の思いを強くした？

16日はオリジナルコンサートに組曲「無言館」を奈良と大阪の合同約50人で歌^(1/2)。創作、少人数発表の多い中、今後この創作曲が全国に広がるだろうと予見させるトリに相応しい集中した演奏になった。この後、グラバー邸を見学した。好天に恵まれ長崎港の見晴らしも良く、折からソプラノコンサートも庭園でされており、しばし異国情緒に浸ったひと時であった。丁度夕刻で小腹が空いており、タイミング良く土産物店でカステラの試食があり、大阪人らしく遠慮なくしっかり頂いた。もちろん買いましたよ。

その夜の大音楽会はなんと言っても長崎の被爆者の生き様を描いた「平和の旅へ」が感動の涙であった。長崎西高校のオーケストラも加わり、平和運動が若者へ受け継がれていく未来の光を感じさせるものであった。Sさんはすっかりナターシャ・グジーの虜になってサインと握手を貰って一層目じりが下がっていた。

さて、17日最後の日は合発Aの「とよの合唱団」の数人を送り届け、平和エリアの見学をした。平和祈念像前の記念写真は、爽やかな朝日を浴びて、みんな平和で希望にあふれた若者の顔に写っていた。

（と思う・・・）原爆資料館では、たった一発の原子爆弾が七万三千人の命を一瞬に奪い、長崎市内を焼け野原にした生々しい脅威の爪痕を目の当たりにして、核兵器廃絶の思いを新たにした。今後、あの「ねがい」の歌を歌う時、世界中に現存する、三万発の核兵器廃絶の「ねがい」を込めて歌いたいと思う。

最後の観光地「柳川」では甘味の「鰻のせいろ蒸し」とビールに大満足したお腹を抱えて船に乗り込んだ。船頭さんの巧みな竿さばきと、筑後弁でのシャレまじりの話しゃや歌を聞きながらの川下りは、色とりどりの花々や川に枝垂れ下がる緑の木々の風情にすっかり身も心も溶け込み、心地よい安らぎのひと時であった。そしてこの堀を埋め立てる計画の寸前で清流に蘇らせたのは、柳川市役所のある係長が市長に直訴し、住民を巻き込んでの堀の浄化運動だった。このパワーが白秋祭に発展し、住民同士の絆を深め、川下りの柳川として観光名所として全国に知られるようになったことは、水や自然を守ることがいかに大切かを思い知らされた。



今回の旅は、柳川川下りやフェリー

で船酔いはしなかったけれど、合発銀賞の祝い酒にたっぷり酔った旅となった。

「 祝い酒 船酔いもせず 酔いつぶれ 」 三村？